

### 創業計画書

お名前 原 秀鶴 事業所名 BIJOUX

1 創業の動機(創業されるのは、どのような目的、動機からですか)

・小浜へ観光に来た人の憩いの場を作りたいと思ったため。  
・観光客と小浜の人の交流の場を作るため。

---

2 取扱商品・サービス

取扱商品 サービスの 内容	① ランチ 850円(3種類/ドリンク/デザート/サラダ) 一品料理・紅茶をメインとしたドリンク各種
	② アフタヌーンティー 1000円(3種のケーキスタンド/サンドウィッチ/ケーキ/紅茶)
セールス ポイント	・小浜の農家産の野菜を利用したサラダやサンドウィッチ ・定期的に英会話カフェを開催 ・店内演奏会を開催

※原さん作成の創業計画書


#### ステップ step.2 プロと相談しながら計画しよう

経営に関することや資金計画について、商工会議所や金融機関など創業支援のプロと一緒に考えます。



#### ステップ step.3 事業計画書を作成しよう

創業に際して、具体的な事業内容、資金計画表などを備えた事業計画書を作成する必要があります。作成方法についても、アドバイザーがサポートします。



#### ステップ step.4 創業の準備をしよう

資金計画などの準備ができたなら、事務所や事務用品など、必要なものを用意しましょう。また、創業前に必要な手続き(開業届など)を、創業支援のプロがサポートします。



### 創業おめでとう!

おめでたいですね！  
しかし、ここからが本当のスタートです。創業後も支援機関がしっかりアフターフォローをします。



# 特集 社長 になろう!

—— 創業という選択肢 ——



**最**近、市内では空き店舗や空き工場が増加しており、まち全体の活力低下が危惧されています。昨年5月に、市と各創業支援機関が作成した「小浜市創業支援事業計画」が、国の認定を受けました。その計画の通り、市では現在、商工会議所や金融機関と連携し、地域一体となって創業を応援しています。

この計画では、市街地や空き店舗を活用した会社や店の創業を支援することにしており、創業の促進によって、まちの魅力向上や新たな雇用の創出にもつなげていきたいと考えています。

この春から何か始めたいと思っている人や、社会貢献したいと思っている人は、創業という選択肢はいかがでしょうか。

あなたの夢のため、小浜を魅力的なまちにするため、創業を考えてみませんか。

■ 問い合わせ  
商工観光課 ☎53・9705


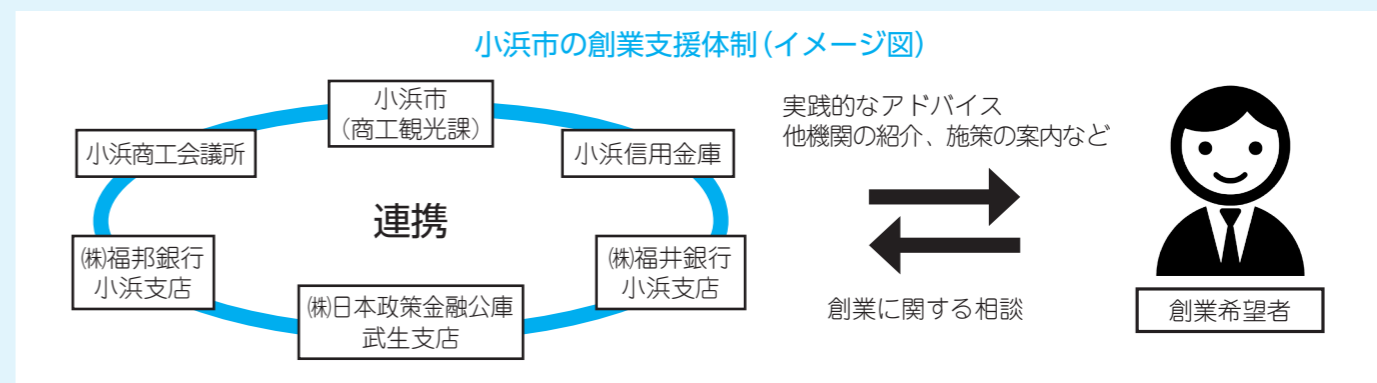
#### ステップ step.1 相談窓口にご相談してみよう

まずは、創業支援窓口にご相談してみよう。市役所商工観光課、商工会議所、市内の各金融機関が窓口となって、あなたの悩みを解決します。



#### スタート start. 創業してみよう

カフェ巡りが大好きな地域おこし協力隊の原さん。今回は、原さんにカフェを創業する過程をシミュレートしてもらいました。

### イチオシ情報 創業者向けの支援制度

新規開業支援資金 (株)日本政策金融公庫事業)	開業支援金 (福井県事業)
融資限度額 7,200万円	無担保: 2,500万円 有担保: 1億円
申込先 (株)日本政策金融公庫各支店	融資利率 無担保: 1.2% 有担保: 1.3%
女性、若者/シニア起業家資金 (株)日本政策金融公庫事業)	申込先 商工会議所、福井銀行、小浜信用金庫、福邦銀行
融資限度額 7,200万円	
申込先 (株)日本政策金融公庫各支店	

※利率、担保などの詳細については、それぞれの公式ウェブサイトなどで確認してください

### イチオシ情報 創業しているのはどんな人?

創業される業種は、サービス業、飲食・宿泊業が多くなっています。創業する年齢は、30~40歳代が全体の約7割を占めますが、幅広い年齢の創業者が出ていることから、年齢に関わらずチャレンジできることが分かります。

※データは県のH26創業融資実績に基づく

業種別の創業企業構成

創業者の年代別構成





## 創業者に 聞こう! ②

マルヤ国際商事株式会社 代表取締役

やしき ひろみち  
屋敷 浩道さん (34歳・おおい町)

**昨** 年12月に駅前町で、地産の食材が売りの焼肉・海鮮料理店『まるや』を開業した屋敷さん。昨夏に、「人生一度きり。そろそろ勝負に出る時期かな」と、前職の水産物加工会社からの独立を決意しました。

高校の同級生で、共に独立した現事務が、仕事上の良きパートナーです。「彼の前職は町役場の公務員なんです。それぞれタイプが違う前職の経験を生かして二人三脚で仕事をしています」と、屋敷さんは語ります。

創業の際は、市内金融機関から支援を受けました。「融資や物件の情報提供をしてく

## 創業者に 聞こう! ①

あずみの整骨治療院 院長

おおたに けんすけ  
大谷 研介さん (29歳・大手町)

**一** 昨年の9月に創業された『あずみの整骨治療院』。院内で筋力トレーニングを行うことができる珍しい整骨治療院です。

院長の大谷さんは、「専門学校を卒業したあと、大阪の整骨院に勤めていましたが、途中から、小浜に帰って開業したい、という気持ちがあふつと湧いてきたんです」と、創業のきっかけを振り返ります。

創業を決意した大谷さんは、商工会議所から、事業計画書の作成や、補助金の申請などのサポートを受け、創業を果たしました。「従業員の頃よりもストレスは大きい



## 従業員の生活を最後まで面倒見る、という覚悟

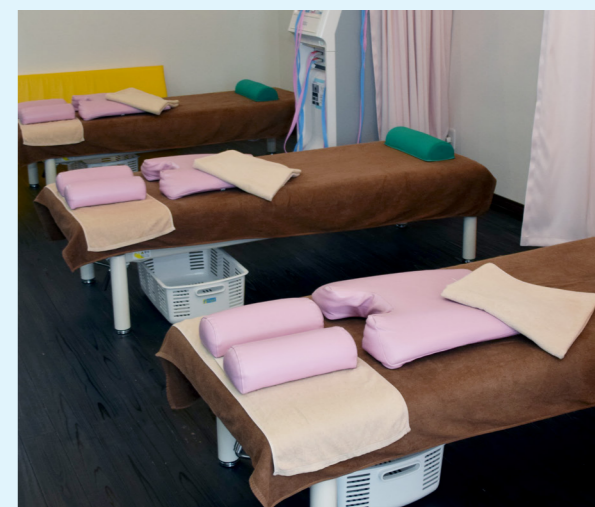


い、スムーズに創業の準備ができました」。開店の準備段階では、上質の牛肉を手にするための苦労もありましたが、「短期間で準備ができたのは、今までの人脈のおかげです」と、つながりの大切さを口にします。

創業するとき考えたのは、『責任』についてでした。屋敷さんは、「独立しても、継続しなければ意味がありません。従業員の生活を最後まで面倒見る、という覚悟は、今後も持ち続けなければいけないと思っています」と、決意をもって語ります。

創業を考えている人に対して、屋敷さんは、「家族を食わせていけるんだ、という自信は必要ですが、人生一度きりです。悩んだらとにかく前進しろ、と言いたいですね」と、熱いエールを送ってくれました。

## 目標は、東京オリンピックに携わること



すが、やりがいも大きくなりましたね」。

苦労した点については、「開業当初の資金繰りや領収書の管理ですね。領収書などは、今は税理士さんに頼んでいます。自分でやっていた頃は大変な思いをしました」と、経営者ならではの経験を口にします。

現在の目標は、2020年開催の東京オリンピックに携わること。大谷さんは、「小浜からオリンピックに出場する選手が出て、その選手のメンテナンスができれば素晴らしいですね」と、目を輝かせます。

「小浜に大きなスポーツジムを開き、そこで利用者に正しいフォームや姿勢などを指導したい、という夢も持っているんです」と、笑顔で語る大谷さんは、今後も小浜のアスリートたちを支え続けます。

## 支援担当者が語る! ②



小浜市役所商工観光課  
野村 俊介 主事 (24歳)

### 市の窓口まで気軽に相談を

現在、国をあげて創業を促進しており、一昔前に比べて創業しやすい環境が整ってきました。特に若者や女性の創業については、さまざまな優遇措置があり、追い風が吹いています。

小浜は、大都市に比べると、商圏などの面で見劣りするかもしれませんが、しかし、人と人との結びつきが強固であることや、必ずどこかで知り合いの人とつながるため、地域で愛される事業所になりやすい、といった大きなメリットがあると思います。

創業で悩んでいる人は、市の窓口(商工観光課)まで、まずは気軽に相談してください。あなたの夢を、地域一体となって応援していきます。

## 支援担当者が語る! ①



中小企業相談所  
奥東 久雄 所長 (46歳)

### 今後は空き家を活用した店を

今年度から創業支援事業計画が始まったことで、支援機関としての風通しが良くなり、相談件数は前年度の倍以上に増えています。

一番多い相談は、自己資金の額や、借入れの相談ですね。昔に比べて自己資金が少なくても創業できるようになっているんです。

支援機関としては、融資のあっせんや、届出書類や事業計画づくりのサポートなどを行っています。開業に携わったお店が人気店になったりすると、支援者としてすごくうれしいですね。

今後は、増えていく市内の空き家や空き店舗を活用した新しいお店が増えるように支援していきたいですね。